

ジャイスト

ダイジェスト

JAIST × DIGEST

- 第4期中期目標・中期計画における取組と成果 -

2022 Apr. - 2023 Mar.



「JAIST × DIGEST（ジャイスト × ダイジェスト）」では、第4期中期目標期間に中期目標・中期計画の達成に向けて本学が実施してきた2022年度（第4期中期目標期間の1年目）の特色ある取組とその成果をご紹介します。

「第4期中期目標期間」とは？

国立大学は2004年度に法人化されて以降、6年間ごとに文部科学大臣が定める中期目標に基づき、中期計画を定めることとなっています。6年間ごとに区切った期間を「**中期目標期間**」と言います。

第1期（2004年4月～2010年3月）

第2期（2010年4月～2016年3月）

第3期（2016年4月～2022年3月）

第4期（2022年4月～2028年3月）

「中期目標・中期計画」とは？

各国立大学法人が6年間で達成すべき目標を明示したものを「**中期目標**」、中期目標を実現させるための具体的な計画を「**中期計画**」と言います。中期計画にはそれぞれ達成水準を測るための「**評価指標**」が設定されています。



JAISTマスコットキャラクター
ジャイレオン

第4期中期計画 （概要・抜粋）

教 育

- ◆ データサイエンス、AI、知識マネジメント等のカリキュラムの整備
- ◆ 企業関係者の参画による教育
- ◆ 産業界や海外機関との連携による研究指導
- ◆ 新たな社会人教育プログラムの展開

学 生 支 援

- ◆ 希望する博士後期課程学生が必要な支援を受けられるための修学支援の改革
- ◆ 新たな研究支援制度の創設

研 究

- ◆ IR活用による新たな共創的研究のグループ化
- ◆ 共創的イノベーション創出拠点の形成による優秀な研究者等の確保

業 務 運 営

- ◆ 学長のリーダーシップを支える戦略部門の充実
- ◆ 外部研究資金等の獲得推進
- ◆ 研究力強化への重点配分
- ◆ 施設の戦略的・重点的再配分
- ◆ 施設の長寿命化
- ◆ キャンパスDX推進計画に基づく事務システム効率化

社 会 連 携

- ◆ 研究と産学官連携を一体的かつ有機的に支援する仕組みの整備
- ◆ 大学の技術シーズと地域・産業界のニーズの融合を促進するMatching HUB事業等の強化
- ◆ 産学官連携等に向けた施設・設備の共用化



※ 詳しくはHPにてご確認ください。

<https://www.jaist.ac.jp/about/operation/plan.html>

データサイエンス、AI、知識マネジメント等のカリキュラムの整備

令和4年度においては博士後期課程学生を対象とした必修講義「人間力・創出力イノベーション論」を、情報科学と知識科学の基礎と方法論（データサイエンス、AI、知識マネジメント等）を体系的に修得できる講義内容に見直し、データサイエンス等の応用・実践事例も盛り込んだ内容としました。学生の授業評価アンケートでは、大多数の受講者から「満足」又は「やや満足」との肯定的な回答を得ました。

博士前期課程の必修講義についても従来の知識科学に加え情報科学の基礎及び方法論を強化する方向で見直しの検討を行い、その結果を令和5年度のシラバスに反映させました。

産業界や海外機関と連携した研究指導推進

研究指導委託制度（学生の研究指導を国内外の他の研究機関に委託する制度）を活用し、博士後期課程学生の学外での研究指導を推進した結果、博士後期課程学生59名（全体の約14%）が国内外の機関で指導を受けました（うち29名は海外機関）。

今後も産業界や海外機関と連携した研究指導を推進するため、本学主催の国際セミナーの開催や、本学教員が持つ国内外のネットワークを生かした研究指導委託先の開拓等についても検討を行っています。

令和4年度はコロナ禍の影響もあり、学外で研究指導を受けた博士後期課程学生は59名（14.4%）に留まりました。新たな学外研究指導委託先の開拓などの取組を通じて、概ね30%を達成することを目標にしています。

社会人向け教育プログラムの実施

本学では、東京サテライト（東京都港区）において、働きながら学位取得を目指す社会人を対象とする東京社会人コースを提供しています。

令和4年度には、新たに東京社会人コースの博士後期課程学生を対象とした「価値創造実践プログラム」を開講しました。本プログラムでは、日米欧等の国際的な大学ネットワークを活用した「グローバル課題解決型学習」を通じた価値創造方法の習得・開発・実践や、アクティブラーニング（Learning Through Discussion）による研究室の壁を越えた共同での質の高い論文読解を行うこととしており、東京社会人コースの博士後期課程学生の国際共同研究能力を高めることで国際的に通用する未来価値創造人材を育成することを目指しています。



価値創造実践プログラムの必修科目である新規科目「グローバル研究開発マネジメント特論」の授業評価アンケートでは、受講者すべてから「満足」又は「やや満足」との肯定的な回答を得ました。

★東京サテライト 東京社会人コースとは？

東京社会人コースでは社会人学生を対象に下記のプログラムを用意しています。働きながら修士や博士の学位を目指す意欲ある社会人の皆様の教育・研究の拠点であるとともに、情報科学・知識科学のホットな話題に関する公開セミナー・研究会開催などの情報発信、共同研究、産学連携及び企業・社会人学生との交流を通じた学生のキャリア支援の場になっています。

●博士前期課程

技術経営（MOT）プログラム、サービス経営（MOS）プログラム、IoT・AIイノベーションプログラム

●博士後期課程

先端知識科学プログラム、先端情報科学プログラム、価値創造実践プログラム（自由選択）



東京サテライト

JAISTクイズ！答えは最後にあるよ。

第1問：北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）の創立日はいつ？

①1980年10月1日 ②1990年10月1日 ③2000年10月1日



希望する博士後期課程学生のうち、必要な支援を受けられる学生の割合を第4期中期目標期間中に100%とすることを目標にしています。令和4年度においてはUA希望者全員を採用したことでより100%達成しました。



第4期中期目標期間においては、博士後期課程学生への経済的支援の充実だけでなく、新たな研究費支援制度の創設も評価指標として掲げています。



【JAIST基金へのご協力依頼】

本学では教育研究及び学生の修学への支援を一層充実させるため「JAIST基金」を創設しています。詳細はHPをご覧ください。



博士人材に対する支援の強化

本学は、令和4年度から始まった第4期中期目標期間において、「科学技術の未来を拓き世界の持続的発展に貢献するイノベーション創出拠点として、世界トップの研究大学を目指す」ことを目標としており、その一翼を担う博士人材に対する支援の強化を重要課題としています。

ユニバーシティ・アシスタント(UA)制度の実施

博士後期課程学生を対象とした本学独自の雇用型支援制度として、新たに「ユニバーシティ・アシスタント(UA)制度」を創設し、令和4年度から実施しています。

本制度は、学生を研究補助業務に従事させる新たな雇用型の支援制度であり、希望する博士後期課程学生全員をUAとして採用し、授業料相当（年間最大で60万円程度）の経済的支援を行うものです（社会人コース学生や他の奨学金等から授業料相当額以上を受給している学生は対象外）。

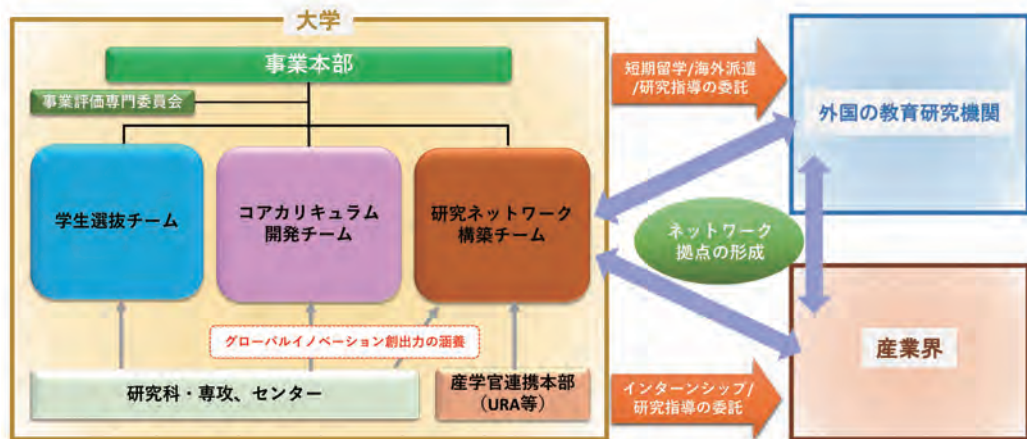
UA制度では採用者数や業務内容が限定されている従来のリサーチアシスタント(RA)制度とは異なり、学生の所属研究室に限らず研究補助業務を必要とする研究室に広く配置することを可能としています。

博士後期課程学生を対象とした研究費支援

令和3年度科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、挑戦的・融合的な研究を通じて我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生を対象に、生活費相当額の研究奨励金（月額20万円）及び研究費（1年次40万円、2年次70万円、3年次40万円）を支給するとともに、キャリア開発・育成の機会を提供する事業を開始しました。令和4年度においては、当該事業において博士後期課程学生33名に対し85,150千円の研究費等の支援を行いました。

また、本学支援財団の学生研究奨励金制度において、博士後期課程学生を対象とした国際会議での発表に係る渡航助成を実施しました（第1回 申請者17名、採用者17名、助成金額968千円、第2回 申請者17名、採用者数17名、助成金額3,200千円）。

次世代研究者挑戦的研究プログラム実施体制図



JAISTクイズ第2問：令和5年5月1日現在の博士前期課程、博士後期課程の学生数の合計は何人？

①424人 ②717人 ③1141人

新たな共創的研究のグループ化の推進

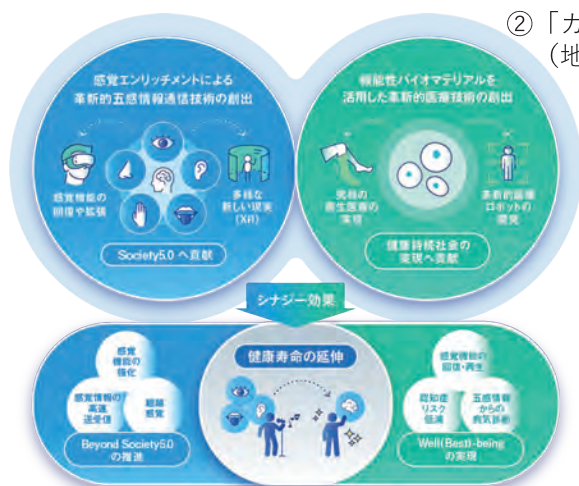
第4期中期目標期間内に新たな「共創的研究グループ」を創設するため、令和4年度においては共創的研究グループの核となる3つの重点分野（①五感情報通信技術に代表される生体機能・感覚研究分野、②カーボンニュートラル等の環境分野、③自然現象・自然災害に関する分野）を選定し、産学官連携本部を改組した「未来創造イノベーション推進本部」の下に、共創的研究を担う次の3つのセンターを設置しました。



研究力分析・動向分析（分野相互の関連性・融合性、論文数や研究資金の動向からみた中長期的な研究動向の分析等）の結果が、支援分野の選定や共創的研究グループの創設に結実すること（第4期中期目標期間中に3グループ程度創設）を目標にしています。



②「カーボンニュートラル研究センター」
（地球規模の環境分野の研究を先導）



①「生体機能・感覚研究センター」
（五感情報通信技術に代表される生体機能の解明・次世代の応用研究を実施）



③「自然との共感・共生テクノロジー研究センター」
（自然災害や感染症の分野の研究）

共創的イノベーション創出拠点の形成に向けた取組

本学では、第4期中期目標期間内に、これまでに構築した本学の強み（エクセレントコア等）をコアとするネットワーク拠点「共創的イノベーション創出拠点」を形成することを目指しています。

令和4年度においては、共創的イノベーション創出拠点のゴールとして、「拠点へ研究機関、研究者、企業等が集積し、協働が進んだ結果、研究成果の技術移転や社会実装につながる」というビジョンを設定・共有し、そのゴール実現のための具体的な方策を検討しました。

また、将来的に共創的イノベーション創出拠点のコアとなりうる新たなエクセレントコアの制度設計を行い、令和5年度から最先端DXを活用したデータ駆動型のエクセレントコア「超越バイオメディカルDX研究拠点」を創設することを決定しました。



超越バイオメディカルDX研究拠点開所式の様子

JAISTクイズ第3問：令和5年5月1日現在の教職員の合計は何人？ ①146人 ②309人 ③455人



生体機能・感覚研究センター
(実験室の様子)



カーボンニュートラル研究センター



自然との共感・共生テクノロジー研究センター



Matching HUB Hokuriku 2022
(2022年11月17日・18日)

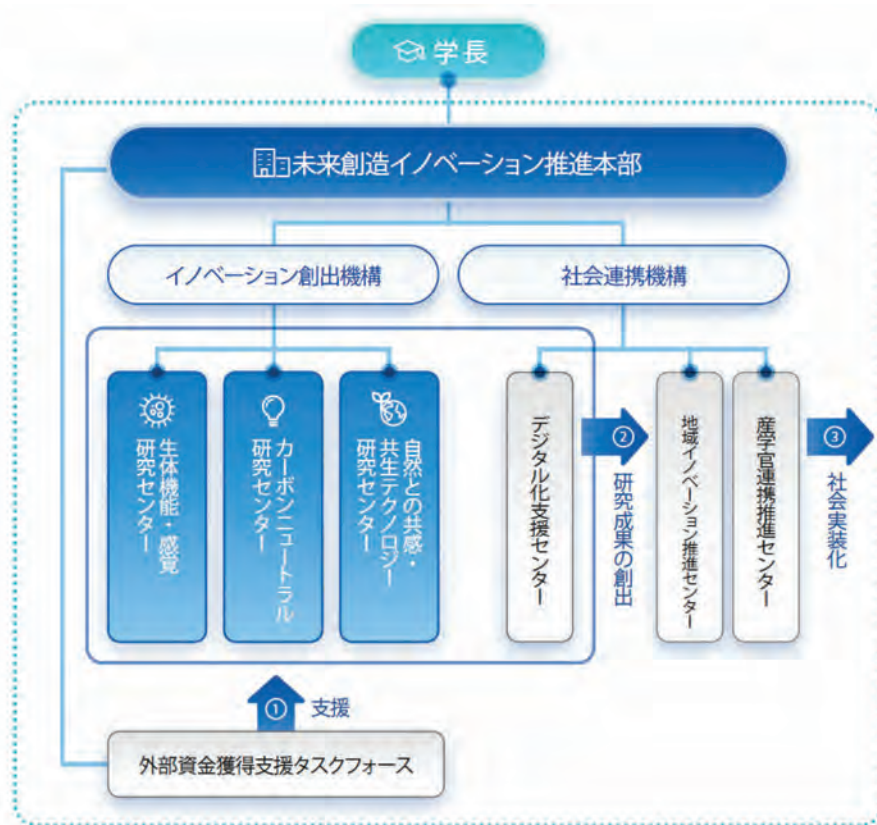


パネルディスカッションの様子

未来創造イノベーション推進本部の設置

本学の強み・特色を最大限に生かし、SDGsの達成などグローバルな社会課題等の解決を加速するため、組織間大型共同研究等の推進、技術移転のシームレスなサポート、研究成果の速やかな社会実装を目指し、新たに未来創造イノベーション推進本部を設置しました。

当該本部は、本学が保有している資源（人材、成果等）を結び付け、産業界への還元に至るまでを一元的に管理するため、学長直轄の組織として設置し、この本部のもとに「イノベーション創出機構」及び「社会連携機構」を整備しています。



Matching HUB事業の内容の拡充及び実施地域の拡大

「Matching HUB」は、本学が中心となって進めている地方創生、地域活性化の取組であり、北陸をはじめ九州や北海道など全国に展開しています。URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）や産学官連携コーディネーターが集めた地域の大学や企業などのシーズやニーズ、行政や金融機関などからの支援を集約し、マッチングさせることで、新製品・新事業の創出を目指します。

毎年金沢市で開催しているMatching HUB Hokurikuの更なる内容拡充のため、北陸地域を中心にURAによる企業等の掘り起こしを行い、北陸三県で約500件、全国で約800件のニーズ調査を実施した結果、令和4年11月に開催したMatching HUB Hokuriku 2022において、パネル展示のブース数が令和3年度の162ブースから203ブースに増加しました。

Matching HUB事業の全国展開の一環として、新たに新潟県長岡市にてMatching HUB Nagaokaを10月23日、24日の日程で開催しました。また、新たな開催候補地域の発掘のため、大分市での開催について検討を開始しています。

I Rの活用

近年、大学運営にはI R（インスティテューショナル・リサーチ）が重要と言われています。学内に蓄積されている多数のデータを集積・分析し、そこから導き出される結果から、学内での意志決定や改善活動を立案・実行・検証するための支援を行う活動を指します。

I R分析を法人の意思決定に活用した主な事例としては、令和4年度の学術論文投稿支援事業を研究担当理事の下で企画立案する際に、質の高い論文の生産数を予測分析したエビデンスデータに基づき、支援対象を上位25%のQ1ジャーナルに分類されるオープンアクセス（OA）ジャーナル誌への投稿に限定する等の事業内容見直しに活用しました。

JAISTイノベーションプラザの活用

構内にあるJAISTイノベーションプラザのスペースを有効活用するため、2階部分を全面的に改修し、最先端DXを活用したデータ駆動型の「超越バイオメディカルDX研究拠点」として整備を行いました。本拠点は経済産業省令和3年度「産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」（Jイノベプラットフォーム型）の補助事業の採択を受けたもので、改修工事が完了し、令和5年4月から本格的に活動することとしています。

U R Aの組織的な支援等による共同研究等の拡大・強化

未来創造イノベーション推進本部に新規にU R Aを2名配置し、組織的な支援等による共同研究や受託事業（技術サービス）等の拡大・強化に取り組みました（令和4年度末のU R A人数：15名）。

U R Aとは、研究資金獲得、研究活動のマネジメント、産学連携、成果の活用促進を行って、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事する人材のことです。令和4年度にU R Aが獲得に関与した共同研究等の内訳は、次のとおりです。

- ・共同研究 15件 51,913千円
- ・受託事業（技術サービス） 6件 5,668千円 他

キャンパス連携基盤の基本方針の策定及び実装に向けた取組

情報環境・DX統括本部において、キャンパス連携基盤の基本方針を策定し、短期・中長期で取り組むべき課題について整理しました。

学務システムの調達において、連携API（外部のアプリケーションやシステムとのデータ連携）の今後の実装を意識し、関連した機能を仕様で反映させ、実装するとともに、学務システムの連携先のポートフォリオシステム、キャリアサポートシステム、ANPIC（安否確認システム）といった業務システムにおいても、対応する連携機能の実装を行い、データの自動更新が行われる仕組みを実装しました。

I Rの結果を法人経営へ活用する仕組みを構築し、当該I Rの結果を踏まえた法人の意思決定が行われることを評価指標としています。



シェアードオープンイノベーションルーム
（会員制：有料）

U R A等の機能・役割の拡張・高度化により、産学連携等研究収入及び寄附金収入等収入額を令和2年度（実績：857百万円）に比して、第4期中期目標期間最終年度において10%以上増加させることを評価指標としています。

その他、業務運営に関する次の取組を実施しました。

- ・学外有識者との意見交換
- ・インフラ長寿化計画の実施及び見直し
- ・研究力強化に向けた学内資源重点配分
- ・ステークホルダーに向けた情報発信
- …etc



JAISTクイズ第5問：令和5年5月1日現在の外国人留学生の国籍数は？ ①17か国 ②34か国 ③51か国

最先端の研究とグローバル人材の育成により 未来を拓き世界をリードする



国立大学法人
北陸先端科学技術大学院大学
学長 奇野 稔

世界は今、かつて例をみない程のスケールとスピードで変化し、混迷の度を深めています。大学にはこのような世界を導く新たな価値の創造が求められています。各大学は、それぞれの強みを生かした知の創造と知識社会を牽引する人材育成を通して社会の期待に応え、ステークホルダーとの信頼関係を強化する必要があります。

こうした状況を踏まえ、本学は、開学以来取り組んできた建学の構想に則した教育研究の実績を背景に、第4期中期目標期間における大学の基本目標を次のとおり設定しました。

1. 独自の研究の高度化と先鋭化を進めつつ、国内外の大学や研究機関、産業界とのグローバルな連携に基づく新たな共創により、科学技術の未来を拓き世界の持続的発展に貢献するイノベーション創出拠点として、世界トップの研究大学を目指す。
2. グローバルな連携に基づく先端科学技術分野の研究を背景に、全学一研究科体制の下、意欲に溢れた学生を国内外から広く受け入れ、先端科学技術の確かな専門性と共創力、国際性を持ち、新たな時代を先導する知のプロフェッショナルとして育成する。

北陸先端科学技術大学院大学は、「世界トップレベルの研究の推進とそれを通じた人材育成、教育・研究による社会貢献」を使命とし、未来を拓き世界をリードする研究大学として大きく発展していきます。

JAIST × DIGESTを読んでいただきありがとうございました。
今後の改善のため、皆様の感想・ご意見をお寄せください。

アンケートの回答はこちらから



JAISTクイズの答え！

問1. ②1990年10月1日 問2. ③1141人 問3. ②309人
問4. ②約4割 問5. ①17か国

JAIST × DIGEST 2022 Apr. – 2023 Mar.

発 行 日 2023年10月1日

発 行 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学 評価室
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1
TEL 0761-51-1013
<https://www.jaist.ac.jp/index.html>

対 象 年 月 2022年4月～2023年3月

